



ありがとう～「農」に感謝!、「農」に感激!!～

(右:植物科学科3年のプロジェクト発表
左:食品科学科の農産加工品の即売)



平成二十二年年度農業祭
十一月十二日～十三日、農業祭が開催されました。生徒は事前の準備から一生懸命頑張りました。初日は、実行委員会の企画によるプロジェクト発表が行われ、研究・活動の成果が地域に根ざしていることを再認識しました。また、神楽の演舞も行われました。二日目は、学習成果の展示や生産物の即売、PTAの参加もあった食の広場等が行われ、地域から多くの方にお越しいただきました。

「農業祭を終えて」

農業祭実行委員長
植物科学科三年 藤原 陸

農業クラブ。農業クラブで一番大きな行事といえば農業祭です。私たち農業クラブでは今年、生徒が主体になる農業祭という目標を掲げ、オーブニングセレモニーの一部を担当することになりました。オーブニングセレモニーで何をやるのか、その設定には時間がかかりましたが、プロジェクト発表と〇×クイズをすることになりました。運営を生徒主体とするのは私が生徒会役員になつてからは初めてのことで、難しい取り組みでしたが、無事終わりで大変うれしく思っています。もう少しで新会長が決まります。新体制になったら会長としての経験を、アドバイスという形で伝えていきたいと思います。



「たくさん笑顔にありがとう」

農業祭実行副委員長
食品科学科三年 山根彩花

今年度の農業祭も、明るく活気あるものになったと思います。一日目は全校生徒で神楽の観賞や、農業クラブの皆さんが考えた「出雲農林高校にまつわる〇×クイズ」を楽しむことができました。〇×クイズでは、今まで知らなかったことを楽しく知ることができました。二日目は一般公開日でした。即売や食の広場の店、催し物や展示など、どの場所も明るく装飾されていました。また、生徒一人ひとりが明るく、笑顔でお客様に接客している姿が各所で見られました。

私はこの二日間でたくさん笑顔を見ることができました。当日までの準備では意見が食い違ふこともたくさんありましたが、たくさん笑顔を見ることができ、とても良かったです。



PTAの店で、うどんそばの販売をされる保護者の方

A F S 東アジア青少年大交流会

十二月九日、オーストラリア、インドなど七カ国の高校生十一名が本校を訪れました。全校生徒による歓迎式典、そば打ち体験、植物バイオの実験等を通して、交流を深めました。交流に参加した生徒の感想を紹介します。

「日本の食文化で交流」
食品科学科二年 宇京弥久莉

私はA F Sの方達とそば打ち体験を通じて交流をしました。最初はお互い緊張もあり、ギクシャクしていました。でも、知っている英語やジェスチャーでそば

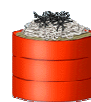
第一回校内農業鑑定競技

十一月二十五日、校内農業鑑定競技会が耐震工事の終わった体育館で実施されました。専門教科の学習や農業クラブ活動で得た農業に関する知識・技術の成果を試すため、鑑定・判定・診断・審査技術にわたってその実力を競い合いました。



(問題に向かう真剣な様子)

の打ち方を教えているうちに、だんだんと打ち解け、仲良くなることができました。今までに海外の高校生と交流する機会があまりなかったため、とても新鮮で、楽しかったです。また、僅かではありませんが、日本の食文化を知ってもらえて良かったです。



そば打ち体験をする留学生の様子

「鳥インフルエンザ」で思うこと

学校長 桑原 克夫

新聞等で報道されているように、ごく身近な安来市で鳥インフルエンザが発生しました。本校のふれあい動物広場にも鳥骨鶏など多くの鳥の仲間がいるため、一般の方々への見学を中止しています。宮崎で発生した口蹄疫の際に続き今年度二度目の閉鎖となり、動物たちに会うことを楽しみにしておられる方々にはご迷惑をおかけしています。先日動物広場にお孫さんを連れてこられたおじいさんが、「見ることができないのですね」と、寂しく帰られたことがありました。また現在、愛玩動物の管理は先生方からお願いしていますが、動物科学科の三年生から最後の練習ができなくても残念だという声も聞きました。今回の鳥インフルエンザの被害は、養鶏農家の方には想像しがたい不幸だったと思います。手塩に育てている鶏すべての命を絶たねばならないという無念さと、被害を拡大させてはならないという思いがあったことでしょう。それらの思いは口蹄疫の被害に遭われた宮崎の方々も同様だったと思います。命を育むことの尊さと、動物たちのことを思う、生徒を含めた多くの人たちに私たちが支えられていることを、改めて心に感じました。死んでいった鶏たちの冥福をお祈りします。

「ふるまい向上プロジェクト」の取組みについて

教頭 三浦 弘

今年の四月から島根県警察本部及び教育委員会が連携して「ふるまい向上プロジェクト」をスタートしました。これは「礼儀、作法、挨拶、しぐさ、モラル、ルール、しつけ、道徳、倫理観、生活行動、生活動作、思いやり」などを「ふるまい」と総称して、島根県民みんなが「ふるまい」を向上させていこうという取り組みです。

本校では植物や動物などをおして命の大切さ、思いやり、責任、協力することの大切さ、感謝の心を養っています。例えば、親子を対象とした食育事業、地元の小学生と共に取り組んでいる長浜海岸ハマボウフウの増殖と復元、移動動物園、ふれあい動物広場の開放、地域の子どもたちへのそば打ちや菓子作り体験指導、地域の施設に向いて花壇・庭造りなどの環境保全、チャレンジショップなど特色ある活動を展開しています。

学習以外の場面では、生徒会を中心に「一日のスタートは、気持ちの良いあいさつから」のスローガンのもと、朝のあいさつ運動を行っています。毎朝、生徒と教員が昇降口で登校する生徒一人ひとりに元気な声で「おはよう」と呼びかけています。また、生活習慣や食習慣の確立を図るために、生活時間調査を行って実態把握をし、十分な睡眠と食事を摂ることが健康と心の安定につながり、充実した毎日を送ることができるようになると考えております。夏休みには生徒・保護者・教職員がひとつになって、学校緑化事業を実施し、親子での会話と気持ちよい汗を流すことができました。

このような本校の取り組みを通して「ふるまい向上プロジェクト」に参加し、活動の中から社会人として「自立して生きる」「人と共に生きる力」を自ら育んでくれることを期待しています。今後ともPTA、地域が一体になって取り組んでいける活動を推進していきたいと考えております。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1月の行事予定		
日	曜	項 目
1	土	元旦
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	成人の日
11	火	始業式 図書館ガイド提出日
12	水	CS
13	木	作文テスト(1, 2年)
14	金	
15	土	CS
16	日	
17	月	午前中授業
18	火	推薦入試(生徒休業日)
19	水	全校朝礼、CS
20	木	
21	金	第3回英検1次
22	土	出農発表会(出雲市民会館)
23	日	
24	月	1/22の代休
25	火	
26	水	CS
27	木	卒業考査(~2/1)
28	金	
29	土	CS
30	日	
31	月	

スポーツ大会開催

「スポーツ大会で感じたこと」
体育委員長
食品科学科 三年 中田大貴

今回のスポーツ大会で私が最も強く感じたことは、プレー中の謝罪の言葉です。フットサルやバスケットボールでは、どうしても接触が増えてしまいます。しかし誰一人怒らず、すぐに「ごめん」と謝っていました。これは当たり前のごとくに感じますが、「ごめん」は照れくさくてなかなか言えない言葉だと思っています。ぶつかられた方も「ごめん」と言われると良い気分になります。勿論勝ち負けも大事ですが、それ以前の大事なものを皆は見失わずに正々堂々とプレーしていました。応援している生徒も良い気分で応援でき、会場全体が良い雰囲気になります。来年からはスポーツ大会が一日になります。今年以上に盛り上げ、皆で協力し、良い思い出になるよう頑張ってください。

各学科の活動・実習の様子

○植物科学科

十一月十八日、食育体験事業の最終回が行われ、出雲市内在住の五〜六歳児とその保護者十組が、自ら栽培した野菜の収穫とそれを使った調理実習を行い、活動の補助を行った三年生の野菜専攻生とともに栽培の苦労・収穫の喜びを分かち合いました。



栽培した野菜を利用した調理実習の様子

○環境科学科

一年生が十一月十九日に森林林業の体験学習としてヒノキの和紙作りを、十一月二十四日に大規模な土木工事の現場である斐伊川放水路を見学し、施工や水利の学習を行いました。



夢の実現に向けて

(左)個別ガイダンスの様子

十一月二十二日、一、二年生を対象に進路ガイダンスが行われました。進学志望者、就職志望者それぞれに対して講演会を行った後、二十分野の中から生徒各自が希望するブースに移動して個別のガイダンスを受け、希望進路に対する認識を深めました。



(右)ヒノキの和紙作りの様子
左 斐伊川放水路の見学風景

○食品科学科

三年生の食品醸造コース選択生が、春から夏にかけて自分たちで管理、育成したテラウエア、ピオーネを使って、白ワインと赤ワインの醸造を行いました。



テラウエアを使った白ワインのアルコール測定の様子

○動物科学科

地域住民の動物とのふれあいの場を提供し、命の大切さや動物の適正飼養を伝える移動動物園の活動をしている二年生の愛玩動物専攻生の様子が、十一月十七日の日本農業新聞に取り上げられました。

命のぬくもり伝えたい 島根

農高生が出前動物園

20小動物インロコミで人気

写真入で紹介された新聞記事